

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392600124		
法人名	医療法人信愛会		
事業所名	グループホーム秋桜の里 いちごユニット		
所在地	愛知県豊川市三蔵子町北浦25番地1		
自己評価作成日	平成29年12月 2日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392600124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392600124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	平成30年2月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

同じ法人内のクリニック、訪問看護ステーションとの連携で24時間のオンコール体制をとっており、医療面、健康面において入居者・家族の安心につながっている。その先にある看取りにおいても連携を持って取り組んでいる。また、ケアについても本人が必要とするサービスプランに基づき、その方に寄り添った対応を心掛けている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

広い敷地内に落ち着いた色合いの鉄骨作り2階建の事業所は、特別養護老人ホームと隣接し地域に密着した高齢者福祉の拠点ともなっている。今年で4年目を迎える施設は母体が医療法人であり、24時間の医療体制や訪問看護との連携で手厚い医療支援が提供され、入居者や家族、職員の安心につながっている。「これまでの人生や思いを大切に、役割を持って生活をしていく、家族や地域社会とのつながりを大切に、医療と連携し安心できる暮らし」を基本に、職員は入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。入居者と一緒に地域や神社の清掃活動を行ったり、祭りに参加したりして地域との絆を大切にしている。週2回、入居者の希望を取り入れた献立を考えたり、入居者と一緒に調理する手作りの食事はグループホームの楽しみとなっている。晩酌やテラスで焼き鳥とビールで食事をしたり、男性入居者も長年楽しみにしてきた普段の生活が心置きなく出来るような支援をしている。障子をはめ込んだ落ち着きのある居室で入居者は、刺子や習字、読書などの趣味を活かした生活をしている。落ち着いた雰囲気のリビングで、入居者は職員とお喋りを楽しんだり、椅子やソファに腰掛けテレビを見たり新聞や雑誌を読んだりして穏やかに過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に掲示してあり、常に目に入る。毎週月曜日に出勤者全員で訓読している。	事業所理念は職員室に掲示し、理念の中の「個人を尊重し、これまでの人生や思いを大切にします」を基本に、その人らしく暮らせるように、これまでの人生や価値観を大切に笑顔と安心の持てる援助と支援に努めている。また、毎週月曜日に職員で4項目の理念を読み上げ共有して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の活動に参加している。散歩時等、地域の方には進んで挨拶をしている。	町内会に加入し回覧板で情報を得て、地区の清掃活動や神社の餅投げなど入居者と一緒に参加している。特養と合同の納涼祭や餅つき大会は、高校生などのボランティアの協力を得て開催し、民生委員や地域の方、保育園児の参加があり盛大に行われ、入居者と地域の方の大切な交流の場となっている。ハーモニカやギター演奏などのボランティアも受け入れ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回数は多くないが、特養と合同での行事にて地域の方々へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、町内会長、地域包括センター職員、家族に日々の取り組みを報告している。	入居者や家族、町内会長、民生委員、地域包括センター職員、特養の施設長の参加を得て年6回実施している。事業所の運営状況や活動内容、事故報告などがあり、参加者からの情報や意見、提案等はそこで話し合ったり、職員会議などで協議し運営に活かしている。議事録は、ファイリングして玄関と事務所に置いてある。参加できなかった家族には、議事録を送っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	在宅希望の利用者を包括的に支援できる様、市の職員と連携して取り組んでいる。	市の担当者とは更新手続きで訪れた時に情報交換をしたり助言や指導を受けるなど良好な協力関係を築いている。また、包括と連携をし、地域の困難事例などの相談や照会を受け、より良い業務運営ができるように努めている。市の指定介護事業所連絡協議会やグループホーム協議会などに参加をして意見交換などを行っている。市主催の研修会には積極的に参加したり市の介護相談員派遣事業の受け入れもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には「身体拘束排除宣言」を掲げており、日中、玄関は開錠されており出入り可能。戸が開くとチャイムが鳴り、安全対策も行っている。	身体拘束のマニュアルを通して研修を行い拘束に対する意識を高め、スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境づくりに努めている。玄関には、「身体拘束排除宣言」を掲げ、職員間で認識し、共有を図っている。日中、玄関は開錠しチャイムや見守りの中で、玄関先で花を眺めたり広い廊下を散歩したりして、一人ひとりのその日の気分や状態を受け止め、開放的で自由な暮らしができるような支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加。日夜防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主として在宅希望の利用者について、全員で検討し、必要な支援を理解する取り組みを行っている。また、必要に応じて関係者との情報交換を行い活用に向けて取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時、または家族から質問等あった場合その都度対応し家族とのコミュニケーションを図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族からの要望があった時点でのその都度の対応によって意見を取り入れている。	入居者からは日々の関わりの中から要望などを聞くようになっている。家族からは面会時や行事、運営推進会議などで気軽に話せる雰囲気を作ったり、電話連絡などで機会あるごとに意見や要望を聞きようになっている。意見や要望は、申し送りノートに記録してカンファレンス等で話し合い、職員間で共有してケアや接遇などの改善に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンスで意見交換や提案をし、検討している。	日々の申し送り時など皆で話しやすい環境づくりに努めている。毎月のユニット会議や全体ミーティングでは職員からの提案や要望を聞き協議をして運営に反映させている。年1回の自己評価や満足度調査を法人で実施し意見の集約をしている。また、年2回の個別面談では各職員から将来に対する目標や意見、要望を聞く機会を設け処遇に反映させ、さらなる成長を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年延長、資格手当やパート陳言の見直し等を行っている。 自己評価の提出やそれに伴い上司との面談にてコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2~3人の内部研修、外部研修への参加、新卒や中途採用者には新人研修への参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他事業者との情報交換の場としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行う事により、本人の要望や不安を伺い、安心して暮らせるように信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行う事により、家族の要望や不安を伺い、安心して暮らせるように信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入段階の家族との面談時には必要に応じ他のサービス、他の事業所の情報提供も合わせて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームという事業の特性を活かし、共に生活をしていく気持ちを持って入居者と接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には現在の状況、状態を報告し、また家族の思い、考え、利用者の生活史の情報等を意見交換し、コミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	妻の墓参り、出生地への外出等の支援を行っている。	フェイスシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握し、買い物やお墓参りに行ったり、家族と美容院に行くなど継続支援に努めている。友人や知人など面会時には、訪問しやすいような配慮をしている。書や絵手紙などの趣味、日常の洗濯、掃除、ごみ出し、調理、食器拭きなど、今までの生活経験が途切れないよう入居者一人ひとりが活躍ができる支援を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の様子を観察し、食席や、外出、レクリエーション参加のセッティングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際にも、いつでも訪問していただけるよう声を掛けている。 また、必要に応じて写真等の提供も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人が日々の会話、コミュニケーションから本人の思いを把握し、カンファレンス等で意見交換を行っている。	日常の入居者との関わりや会話、表情などから読み取ったり、ケアの中から感じ取ったことをカンファレンスで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、カードなどを利用して意思を確認したり、家族と情報を共有し一緒に支えていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には聞き取り煮て基本情報を作成し、カルテに入れていつでも閲覧できるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で小さな変化にも気づき職員同士でカンファレンス、記録等で情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れながら介護計画を作成している。	担当職員が入居者や家族の意向を聞いたり、日常の様子を記載した個別記録を基に職員間で課題などについて話し合い、情報交換をしている。3か月に1回できる事できない事の自己評価を基にモニタリングをして、6か月に1回計画の見直しを行っている。医師や訪問看護師などの意見や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを活用する事で職員間の情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や訪問看護、緊急時の往診で医療との連携を図っている。また、グループ内事業所対抗の輪投げ大会開催等のイベントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のスーパーや薬局、飲食店を利用し地域での生活を心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携は24時間対応。月2回の訪問診療、入居者の健康状態を把握している。かかりつけ医、協力医への受診は職員が行っている。	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いている。内科・歯科による住診は月2回行われ、訪問看護師とも連携を取り週1回バイタル記録表を基に健康管理を行っている。薬の管理は薬局が行い、専門科などの受診は必要に応じ職員で対応している。身体状況に変化があった時や緊急時は24時間体制で提携医や訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。受診後は申し送りなどで周知し、家族へも報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループ内の訪問看護ステーションとの契約にて週に1度の看護師によるバイタルチェックにて入居者の健康状態を把握している。夜間対応も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時にはホームより情報交換を行っている。また必要に応じて病院等に訪問し状態を把握した上で退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医師同席のもと家族への説明を行っている。また、入居時のみならず必要に応じて意向確認を行っている。隣接する特養等他サービスの利用も視野に入れるなどの柔軟な考えのもと支援を行っている。	重度化や終末期、看取りについては入居時に家族と主治医を交え方針等を説明した上で意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合には、早めに家族に報告し、随時状況を説明し隣接する特養などの利用も視野に入れながら意向を再確認し検討している。家族や医師、訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者が安心して生活が送れるよう柔軟な考えで支援をしている。訪問看護師による看取りやメンタルの研修も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や救命救急講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。また、今年度の業務改善活動は災害対策をテーマに取り組んでいる。	法人全体で防災対策について話し合い連携の場を設け、災害時安否コールシステムを導入した。事業所では年2回防災訓練を計画し、初期消火活動や避難誘導訓練が行われている。また、消防署立会いで地震や夜間を想定した訓練も予定している。備蓄品は3日分の水や食料、防災用品などを備えチェック表にて職員が把握している。「まずは、自助から」として入居者と一緒に防災ずきんを作成して、災害に備えている。	法人組織で取り組む防災計画には、心強く期待も大きいと思われるが、ホームの生活の中での職員の防災に対する心構えや実践力の構築、災害時の地域連携などについて、職員会議や運営推進会議などで入居者の安全について検討していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格に応じて対応しており、特に言葉かけや態度は意識して行動している。	入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努め、個々の生活スタイルを継続できるよう支援している。入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮し、それぞれの立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。風呂やお酒など男性が窮屈な思いをしないような配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き、また選択肢を与える事により本人の自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り努力している。希望がある場合は優先して行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感や、その人らしさを出せるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回、自由献立があり入居者と相談しながら食事を決める取り組みを行っている。	法人の栄養士により季節の食材を取り入れた献立が立てられ、毎食手作りしている。事前準備や後片付けなどは、その人の能力に合わせて職員と一緒にしている。週2回の自由献立の日は入居者の希望を聞きメニューを決め、職員と旬の食材などを買いに行き、調理している。季節の行事食や握り寿司の日などは楽しみの一つとなっている。「男の日」を設けテラスで焼き鳥とビールで食事を楽しんだり、晩酌の日を設けたりしてそれぞれが楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成している。 必要に応じて水分摂取量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行っている。 夜間は義歯を預かり清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄リズムを把握する事に努めている。	座位での排泄支援に心がけている。排泄状況はチェック表で確認し、その人の排泄パターンを把握したり、表情や行動から察知してトイレでの排泄が維持できるように、話し合いその人に合わせた支援をしている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し生活の中での水分摂取や適度の運動を行っている。 医療との連携にて下剤の使用や滴便での対応もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日の設定などは行っておらず、その都度の促しによって行っている。時間帯は人員配置上、日中に行っている。	日中のリラックスした時間帯に入浴し、特に曜日は決めていない。申し送り時に入浴チェックを行っている。入居者の希望に合わせて毎日でも対応している。湯の清潔や冬季のヒートショックに配慮し、季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯等も楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は個人の希望にそっている。習慣や体調、状態に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の情報は個人のカルテに処方毎に保存しておりいつでも閲覧できるようになっている。また薬剤師からの居宅療養管理指導も入っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの性格や個性を把握し、日々の生活を送っていただくよう支援している。また季節に応じた行事なども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって季節感を感じられるような外出レクを企画している。時に集団行動にこだわらない少人数での外出も行っている。家族との外出も支援している。	日常的に戸外に出るよう心掛け、お天気の良い日には、テラスに出て菜園の水やりや、日向ぼっこ、ホームの周りを散歩したり自由に戸外に出られるよう見守り支援をしている。食材の買い物やドライブ、更新の手続きに同行したり機会あるごとに個別の外出支援に心がけている。季節の花見や神社に初詣など季節を感じられるような外出支援を計画したり、誕生日外出や家族と自宅に出掛けるなど、それぞれの体力に合わせて時間を調整し無理のない支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在事務所にて金庫管理。支払い時等渡し、清算をしてもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話の希望を聞き支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気、しかし暗くならないように心掛けている。 温度、湿度等空調管理をし、入居者が快適に過ごせるよう配慮する。	ユニット間は、可動式の間仕切りになっている。イベント時には、間仕切りを移動させワンフロアのリビングとして広く使えるよう工夫されている。壁には、職員紹介用のイラストや入居者と一緒で作成した季節の作品などを飾って明るい雰囲気の住み心地の良いリビングになっている。入居者と毎日掃除をして清潔に気を配り温度や湿度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席を用意し、自由に過ごせるようになっている。食席にはトラブルにならないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコン以外の家具は馴染みの物を持ちこんで使用している。	居室の窓は障子で、和の落ち着いた雰囲気を醸し出している。風通しの良い明るい居室には、使い慣れた筆筒や椅子、テレビ、などを持ち込み、家族の写真など好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。清潔保持と安全に配慮して心地よい生活空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーや車椅を使用しても移動しやすいスペースを確保している。施設内に段差がな1人でも安全に移動しやすい環境になっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600124		
法人名	医療法人信愛会		
事業所名	グループホーム秋桜の里 かきユニット		
所在地	愛知県豊川市三蔵子町北浦25番地1		
自己評価作成日	平成29年 12月 18日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392600124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&amp;UgyosyoCd=2392600124-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成30年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ法人内のクリニック、訪問看護ステーションとの連携で24時間のオンコール体制をとっており、医療面、健康面において入居者・家族の安心につながっている。その先にある看取りにおいても連携を持って取り組んでいる。また、ケアについても本人が必要とするサービスプランに基づき、その方に寄り添った対応を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に落ち着いた色合いの鉄骨作り2階建の事業所は、特別養護老人ホームと隣接し地域に密着した高齢者福祉の拠点ともなっている。今年で4年目を迎える施設は母体が医療法人であり、24時間の医療体制や訪問看護との連携で手厚い医療支援が提供され、入居者や家族、職員の安心につながっている。「これまでの人生や思いを大切に、役割を持って生活をしていく、家族や地域社会とのつながりを大切に、医療と連携し安心できる暮らし」を基本に、職員は入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。入居者と一緒に地域や神社の清掃活動を行ったり、祭りに参加したりして地域との絆を大切にしている。週2回、入居者の希望を取り入れた献立を考えたり、入居者と一緒に調理する手作りの食事はグループホームの楽しみとなっている。晩酌やテラスで焼き鳥とビールで食事をしたり、男性入居者も長年楽しみにしてきた普段の生活が心置きなく出来るような支援をしている。障子のはめ込んだ落ち着きのある居室で入居者は、刺子や習字、読書などの趣味を活かした生活をしている。落ち着いた雰囲気のリビングで、入居者は職員とお喋りを楽しんだり、椅子やソファに腰掛けテレビを見たり新聞や雑誌を読んだりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所に提示してあり、毎週月曜日の朝礼で理念を訓読し、共有・実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、定期的に関覧板が回っている。神社の清掃・地域の保育園とも特養を通じて交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて貢献できるような機会をまだ作れていないのが現状。今後の課題でもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月の1回の開催、町内会長、包括支援センター職員や入居者。家族と、活動報告を通じて日々の取り組みを理解して頂いている。それぞれに意見を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊川市の介護保険事業者連絡協議会に参加し情報交換をしている。市担当者とは、様々な手続きを通じて情報交換をし、指導・助言を受けている。また、豊川市の介護相談員派遣事業の受け入れもしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動の制限を緩和する為日中ほ施錠をしないようにしている。扉の開閉はチャイムで知らされ、見守りを行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などを通じて虐待問題について学ぶ機会を持ち、気になる所はスタッフ同士で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて関係者との情報交換をし、活用の向けて取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時には、契約内容を具体的に説明し、不安や疑問に対しては十分な理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等において意見や要望を聞く機会を設けている。普段の面会時でも、家族と話す機会を作る事で色々な意見を取り入れられるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等でスタッフの意見や提案を出せる機会がある。出来る限り要望に沿えるよう努めている。自己評価提出・スタッフの満足度調査を法人で実施している。また個人面談も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表・職員満足度調査などを行い、個々の状況把握に努めている。面談を行い、向上心を持って取り組めるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内等をスタッフの目に付く場所に置き、参加する機会を確保している。スタッフ全体の質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所との情報交換の場としている。法人内の事業所と合同イベントを行う機会もありお互いの刺激になっている。研修も少しずつ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用面接時、生活状況、希望、不安な事を把握してスムーズに利用開始出来るように、初期の信頼関係作りに力を入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に得た情報を、書面や口頭でスタッフに周知し信頼関係の構築に努めている。家族や、面会者に対し、十分な時間を確保し相談したり、気楽に話しが出来るような環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の「その時」必要なサービスを助言し信頼関係作りに取り組んでいる。わかる範囲で近隣介護サービスの情報提供も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方から昔ながらの習わしを教えて頂く事も多く、共同で食事作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には現況や最近の出来事等を家族に伝えるようにしている。家族しか知らない情報を聞き出せる機会と考えている。支援の内容によって家族に協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪がある。居室でゆっくりと過ごせるように支援している。法事や墓参りに出かける方もいる。入居者の作品も家族に渡したり、年賀状の作成も行い送付している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の中で相性が良くなく、トラブルになりそうな入居者同士には食席にも配慮している。個々の感情を受け止め関係作りを支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了の際、いつでも訪問して頂けるように声かけを行っている。関係が途切れないようにしていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から本人の思い、希望を把握出来る様努めている。家族からエピソード等を聞く事もあるが、言葉や表情・行動から支援の方向性を見出している事が多い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は聞き取りにて基本状況を作成し、その後は本人や家族との会話の中で情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で小さな変化を見逃さないように努めている。ユニットノートを作り情報を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聞きながら、介護計画を作成している。各担当スタッフが中心となり、モニタリング・アセスメントを開催し、ご本人の思いを反映させる仕組みとしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活チェック表・個人記録・申し送り時や申し送りノートを活用することにより情報の共有に努め、日々の実践や介護計画作成にも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な状況時や面会、外出などは柔軟な対応に心がけている。訪問看護・訪問診療等他職種や他の事業所とも連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を持ったり、町内清掃に参加し地域との関わりが持てるように支援している。薬局・スーパーが近くにあり、頻繁に利用し、入居者と出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人診療所がかかりつけ医となる。24時間対応。月2回の訪問診療。かかりつけ医・協力医への受診はスタッフが行う。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をし、週一回の健康チェックや、日常の相談、24時間急変時の協力体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームより情報交換を行っている。また必要に応じて病院等に訪問し状態を把握した上で退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に説明、医師同席で意向確認を行う。状態が変わった際には必要に応じて再度意向確認を行う。本人にとってより良い生活を考えながら支援している。看取りを行う場合もある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	上級救急救命講習会にはほぼ全員参加し緊急時に対応できるようにしている。内部にて実践力の強化をしていく必要がある。スタッフの自主的な勉強会などは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は遅れている。夜間想定訓練は実施出来ていない。スタッフ側の心構えは準備万端とはいえない。今年より法人携帯にてスタッフ安否コールが発足。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格、認知症状を話し合いスタッフ同士が互いに注意し合いながらプライバシーを傷つけないように接している。入居者の個性や相性も考慮して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をくみ取り、自己決定できる様働きかけている。自己決定困難な方には選択できるような声かけを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活である為1日の流れはある程度決めてはいるが、強要はしない。本人の「その時」を尊重したケアに心掛けていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持に努め、その人らしい個性をだせるよう配慮している。自分で化粧をしている入居者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の自由献立の際、入居者と相談しながらメニューを決め、買物調理を実施している。盛り付けなどの準備、食器拭き等、出来る事を見付け行ってもらう。夕食時週2回ビールを飲まれる方もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している。必要に応じて個別に摂取量・水分量チェックも必要な水分・栄養が摂れるように支援している。嚥下状態が悪い入居者には水分にとろみを付ける等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。必要に応じて声かけ・介助を行う。義歯の預かりも実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個人の排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促している。立位不安定の方も可能なら、二人介助で排泄誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより把握に努める。便秘の方は水分摂取の促しや、体操等を行い、自然排便を促している。便秘症の方に対しては、医師と相談し、内服で排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	言葉かけ、促しのタイミングや方法に気をつけて支援している。入浴時間は基本的に日中に行っている。入浴する曜日などは決めていない。回数が少ない方については、検討し清潔が保てるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、本人の意向・体調を確認した上で、休息がとれるように配慮している。昼寝をされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正確な服薬支援を行う為に、薬剤情報をすぐに確認できる状態にしている。変化があれば記録に残し、医師、看護師、薬剤師への報告・相談もできる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や個性を理解し、日々の充実感や楽しみを持って暮らせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の体操は多くの利用者の日課となっている。外出ドライブなどの行楽については希望を聞いて実現に近づけている。お墓参りに出掛けたり、家族と自宅へ外出される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力や心理状況に応じて少しの金額ではあるが、管理して頂いている。自己管理困難な方は預かり金として、スタッフが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り希望に沿えるよう対応している。年賀状も入居者からご家族へ出しご家族から喜んで頂いた。親戚からハガキが送られてくることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に落ち着いた雰囲気になるよう配慮している。廊下など暗くなりすぎないように配慮している。また、季節感のある掲示物・写真・スタッフと入居者共に作成し、提示してある。事故防止の観点から負必要な物は置かないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各テーブルとソファー席でそれぞれ過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や自分で作られた作品を飾るなど、一人ひとり雰囲気が異なる。家具は使い慣れた物を中心に家族に用意してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内全てに段差はなく、廊下・トイレには手すりが設置しており、安全を前提である。シルバーカーや車イスを使用しても移動しやすいスペースを確保している。		